

家庭医療って何でしょう？

総合診療科 上原 周悟

みなさんは家庭医療という言葉をご存知でしょうか？あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、医療には、耳鼻科あるいは外科といった身体の一部や一系統を専門に扱う医療分野があり、小児科のように特定の対象の方々に提供される医療分野もあります。

設に訪問診療にも伺い、場合によっては学校や役場にも出向きます。病気や外傷だけではなく心理・社会問題にも広く対応し、必要な場合は専門職と共同して対処します。

「何だ、そんなことは改めて言われなくても今まで久米島病院がやってきたことと同じじゃないか。」と思われる方も多くいらっしゃると思います。実はまさにそうなのです。久米島には医療機関が少ないため、他の都市部の病院とは異なります。そして公立久米島病院がこれまで担ってきた役割がまさに家庭医療だったのです。そのためには

医師以外にも、看護師・看護助手・薬剤師・理学療法士・栄養士・社会福祉士・医療相談員・放射線技師・検査技師・臨床工学技士・事務員等といった職種も関わります。役場やケアマネージャー・ヘルパー・施設職員の方々とも協働してあたります。まさに「ワンチーム」と言えるでしょう。しかしながら、一番重要な存在は、患者様ご自身やそのご家族様であり、患者様を中心として我々多職種が連携して健康問題に対処すること

「家庭医療」あるいは「家庭医」を考える時、いわゆる「町や村のお医者さん」をイメージして頂ければよろしいかと思えます。つまり、その地域の方々との継続的な人間関係を築いていて、患者様一人一人の個性や家族の状況・地域環境も把握しており、赤ちゃんやそのお父さん・お母さん、さらにはお祖父ちゃん・お祖母ちゃんが抱える健康問題であってもとにかく診てくれる、そんなイメージです。必要に応じてご自宅や施

が、最良の家庭医療の提供につながるかと考えています。最後に、公立久米島病院の基本理念をご紹介いたします。「私たちは」患者様が安心できる医療を進めるとともに、病気や健康管理に気軽に相談できる久米島住民の主治病院をめざします。久米島の住民と職員が、安心と信頼で結ばれ、心のかような身近な病院をめざします。」

言葉のチカラ

シリーズ②

「読むチカラを伸ばす方法」

小児科 渡邊 幸

前回、「読書嫌い」「勉強嫌い」の子供の中に、「読むチカラ」がまだ身につけていない子が実は結構いることを書きました。「読むチカラ」は伸ばすことができます。まずは「読むチカラ」を評価してみましょう。

① 読むチカラを評価する

普段読んでいる教科書や絵本は「暗記」している事も多いので、評価できません。幼稚園・小学校1年生なら「かたぜぶくてかけぜ・」な

どのひらがな直音(拗音なし)、2年生以上なら「りぴゅぼじゅいおびゃ・」などのひらがな単音(拗音あり)を30文字程度親が紙に書いて、子供に声に出して読んでもらいます。「り・・ぴゅ」と、発音するまでに2秒以上かかる場合は、まだその文字を「読むチカラ」がついていないという事です。

② 読むチカラを伸ばす方法

「文字」を見て「発音」するまでに数秒かかるというのは、「文字」が脳の中で「お」と直結していないということなのです。これは、筋トレの様に目／脳／口のトレーニングで直結させていく事ができます。2つの方法をお示しします。

A) 音読アプリを利用する

スマートフォンやiPadで「音読指導アプリ」と検索すると、小枝達也先生が発案した「ディスプレイ音読指導アプリ」というアプリ(令和2年1月段階では無料)が見つかります。ユーザー名を入れて、幼稚園〜1年生は「直音」から、3年生以上は「単音」から始めてみてください。

文字が出てきて2秒後にアプリが発音します。アプリが言う前に読めれば○を、読めな

ければ×を押しします。ゲームではなく「音読指導」なので、必ず親が携帯を持って画面を子供に見せながら、○×を押ししていきます。

B) 文字カードを作る

ひらがなの文字カードを作成して、フラッシュカードの要領で一枚ずつ子供に見せて読ませます。2秒以内で読めた文字カードは抜き、うまく読めなかった文字は残していくと、苦手な文字だけを集中して練習することができます。

1日5分(アプリは1日1回しかできない設定)、1日30枚など量を決め、子供がその気になる様な「おつ、いいね、その調子！」など、褒める声かけをしながら行うことが大事です。これを毎日×2週間行ったら後に、再度ひらがなの文字の羅列を読ませてみてください。



ください。かなり読みやすくなっていることがわかんと思います。

ディスプレイ音読指導アプリ 鳥取大学小枝達也先生提供アプリ